

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカルケアサービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム香芝 (青空)		
所在地	奈良県香芝市五位堂 1丁目341-1		
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2991000015-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2991000015-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年1月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

特に力を入れている点は、専任の調理スタッフによる毎食手作りの料理。お客様の状況に合わせ形態を工夫したり、好みの食材に変更も行っていきます。出来る限り、食べる意欲を持って1日でも長くご自分で召し上がっていただけるよう、看護師・調理士・介護士が情報を共有し試行錯誤しながら提供しています。

アピールしたい点は、建物は平屋作りの両ユニット間の行き来は自由。毎朝ラジオ体操や夕方には音楽に合わせ合同で体操を行っています。2台ある車両(1台は福祉車両)を使い、近くのスーパーへ買出しや季節ごとにドライブを楽しんだり、ピクニックや花見をします。個別の外出支援も行っています。ご本人やご家族に伺い、回転寿司や水族館・自宅への一時帰宅も支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは年間を通して天気の良い日の散歩や季節ごとの花が咲く公園に多くの花を見に行ったり、年に1度は食事や風呂に入りのおんびり過ごせる施設などへの外出の他、希望を聞きながら海遊館や阿倍野ハルカス、地域の図書館など利用者の思いに添った外出にも力を入れ取り組んでいます。また職員が地域ケア会議や地域の認知症カフェの取り組みに協力しており、運営推進会議に地域の見守りネットワークの関係者や他市の行政職員などの参加があり、ホームの取り組みの紹介や認知症の研修を行うなど様々な情報交換の機会となり関わりを深めています。また家族アンケートの結果から得られた内容を年間目標に掲げ取り組んだり、職員は利用者の意向に添った支援や思いの実現に向けて話し合い、利用者のその人らしさを大切にされた個別支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職の際、研修で学ぶと同時に共有し実践に努めている。	その人らしさや心を込めたサービス、地域とのふれあいなどが謳われた法人理念を玄関の見やすい場所に掲示しています。法人理念を基に年に1度行われる家族アンケートから得られた意見や職員から出された意見を踏まえて具体的な年度目標を決め、毎月の会議で振り返りや確認を繰り返しながら実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや保育園との交流は定期的にあります。地域の方から農作物を頂いたり、近隣に住むご友人がホームへ遊びにいらっしゃることもあります。	保育園の運動会の見学やホームで遊戯や手遊び等の交流を継続し、園児が散歩の途中に立ち寄ることもあります。また紙芝居や歌、琴や尺八の演奏等のボランティアの来訪の他、ホームの納涼祭ではよさこい踊りのボランティアや地域の方の参加を得て開催しています。散歩時に出会った方と挨拶を交わしたり、野菜等の差し入れが届くこともあります。また地域ケア会議への職員の参加を機にホームへの理解が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の広報を通じて、地域の方々へ向け「認知症サポーター研修」を実施。講師として協力し、その場で相談も受けている。(2か月に1回)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で受けた要望やアドバイスは、ご利用者様の個別の外出支援や行事の開催につなげています。	会議は家族、市や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し、日常や行事の様子等を報告し意見交換しています。利用者がゆっくり過ごせる施設の紹介を受け出かけた時、情報をもらい職員の地域カフェの取り組みへの協力などに繋げています。また依頼を受け他市の職員や地域包括支援センター職員を会議に受け入れ、ホームの取り組みを紹介した事もあり、ホームへの理解が深まる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内の様々な変化や変更については、事前に相談・報告を行い、連絡を密にしています。	市の担当者は運営推進会議への出席もあり、ホームの取り組みなどの状況を把握してもらい協力関係を築いています。また様々な報告や届け出などがあれば随時窓口を訪問し報告しています。研修や会議などの案内も届いており、地域ケア会議などにも出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての研修を実施。正しい情報・知識を学ぶと共に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎月の会議の中で身体拘束に関する研修も行っています。家族の希望により夜間のみ家族が持参したセンサーマットを使用している方がいますが他の方法が無い職員間で検討の機会を持っています。玄関や居室の掃き出し窓も自由に出入りができ、職員間で連携して見守り、利用者が自由に動き暮らせるよう支援をしています。	

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」についての研修を実施。正しい情報・知識を学ぶと共に虐待が見過ごされる事のないよう注意し、防止にも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として、成年後見制度について学ぶ機会はあるが、職員に浸透できていない。個々に必要性がある場合は支援を行うことはできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度疑問点や質問を確認しながら説明している。理解や同意が得られるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施。フリーコメントでご要望やアドバイスをいただき改善を行っている。	利用者の要望は関わりの中で傾聴し、個別支援などに繋げています。家族は日頃から面会や行事への参加も多く、来訪時には様子を伝え意見が無いかを聞いています。また年に1度法人による家族アンケートが行われ、アンケートの結果を受けて年度目標を決めています。入浴状況について意見があり、毎月個別の様子を伝える手紙の中で入浴についても報告するよう改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議、日々の引継ぎの中で意見や情報を共有し、具体的な対策に活かしている。	職員の意見は全体会議やカンファレンスなどで聞いており、ケアに関する意見や物品購入など職員は積極的に意見や提案を出しています。ケアについてはできる限り取り入れ、物品購入などは内容により法人に上げて検討してもらうなど意見が反映できるよう努めています。また管理者やリーダーが職員の様子を見て声をかけたり、直接相談に来る職員もおり随時話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のアイデアや提案は、全職員で協力し実践につなげるよう努めている。研修の実施も行っている。個々が提供したいケアを考え実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人向け研修やホーム内研修を行い、学ぶ機会を設けている。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と合同で研修を実施したり、他ホームへ利用者様と訪問した。他サービス事業者が現場研修に訪れる機会も設けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉や行動に寄り添い、何に不安を感じ何に安心されるかを関わる全職員で記録や引継ぎをしながら情報共有に努めている。 混乱を出来る限り招かない関係作りも工夫している。(自宅往復)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には出来る限り情報を提供いただき、自宅での過ごし方を伺います。ご家族が望まれるサービスの内容を具体的に提案できる話し合いを出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な望まれるサービスの提供に努めている。(医療との連携は特に慎重に行う)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまでの生活習慣で養われたものは、出来る限り発揮していただけるよう他の利用者様との関係も含め、職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、最もご本人を理解される存在として、入居後も相談・報告を心がけ、一緒に支えていただきながらご家族の支援にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や関係が途切れないよう支援に努めているが一部である。	親戚などの来訪時は居室に案内し珈琲などの飲み物を出しゆっくり過ごせるよう配慮をしたり、一緒に昼食を摂ってもらう事もあります。友人と一緒に通っていた俳句の会に継続して通う方や職員が送迎し馴染みの喫茶店や美容室に行ったり、自宅に毎日送迎した事もあります。また家族と墓参りや法事に出かける際は身支度等を支援したり、葉書のやり取りなども継続できるよう支援をしています。	

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日々の生活の中で、それぞれの人格に配慮しながら、利用者様同士の関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活全般において、些細な事でも相談・報告に努め、これまでのサービスの利用においても関係を断ち切らないよう工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様にも協力いただき、過去の暮らし方や様子を教えていただき、ご本人の意向に任せる場面を作るよう工夫している。	入居前に自宅を訪問した際はできる限り本人にも同席してもらい、生活に対する希望や暮らしぶりなどを聞き前の事業所からの情報も加味し、意向の把握に努めています。また日々利用者の言葉に傾聴し、本人の言葉や様子などは個人記録に記入しケア会議で思いを把握できるよう検討しています。時には情報を細かくまとめ職員間で共有しやすく工夫したり、24時間シートを用いて一日の過ごし方などの把握にも努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅の様子を見せていただいたり、ご家族にお願いし、情報の提供を書面で頂く等し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の役割や個別の記録、引継ぎで状態・状況の把握に努めている。 入居後も、ご家族に伺い情報を集めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで現状に即した介護計画か話し合い、ご本人にとってより良いものとなるよう努めている。	アセスメントや事前に確認した本人や家族の意向を基に介護計画を作成しています。日々計画の実施状況を記録し、3ヶ月毎に記録や職員の意見を参考にモニタリングを行い6ヶ月毎に見直しています。見直し時には再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き、カンファレンスで話し合った内容などを加味し、必要に応じて往診時に聞いた医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は出来ている、気づきに関する情報を更に量を増やし介護計画に活かせるよう現在取り組んでいる。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に相談し様々な提案をしながら、ご本人にとってより良いサービスの提供が実施できるよう取り組んでいる。多機能を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、お一人お一人の暮らしを豊かに楽しく過ごしていただく為の工夫は行っているが、まだまだ出来ることがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご家族に希望を尊重し、往診医と相談しながら早期適切な対応が受けられるよう支援している。	家族へはかかりつけ医を継続することを進めていますが入居後に24時間連絡が取れる協力医に変更する方も多く月2回往診を受けています。かかりつけ医や専門医への受診は家族が付き添い、職員が送迎を支援する事もあります。ケアマネジャーは看護師でもあり利用者の体調管理や医師との連携を図っています。また希望により訪問歯科や訪問マッサージを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	カンファレンスや記録で情報の共有、直接申し送るなどし、個々の状態に合わせて適切に受診・服薬の指示が得られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、個々の状態や経過をご家族様と共有・理解いただきながら医療との連携、フォローに出来る範囲で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、事業所で出来る範囲をお伝えし、書面で明確に説明した上で了承の下、全職員で支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの支援を行っていますが医療が必要となった場合はホームでの対応は難しいことなどを説明しています。状態の変化に合わせて医師や看護師、家族を交えて意向を再確認し、今後の方針について話し合いホームでできる支援に取り組んでいます。職員は医師や看護師から状況の説明を受け、家族は面会を増やしたり、泊まって付き添う家族もおり、協力も得ながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制、対応については状況に応じ、医療従事者へ指示を仰ぐよう周知している。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練実施。地域の防災訓練にも参加している。全職員がAEDや消火器の使用について訓練を受けている。	年に2回消防署の指導の下、昼夜を想定した通報や初期消火、利用者の体調に配慮しながら全員の避難誘導を行っています。運営推進会議で訓練の案内と報告を行い市職員の参加を得ています。また乾パンやみそ汁などの食糧の備蓄を置き、日付の管理や試食なども行っています。地域で訓練が行われる際は参加をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を知り、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけて対応している。	年に1度接遇やマナーに関する研修を行い、日頃は丁寧な言葉遣いを基本にしています。また職員が声をかける時の表情や声のトーン、話すスピード等にも留意し、一人ひとりに合わせたわかりやすい言葉掛けや対応に努めています。不適切な対応が見られた際にはその都度注意し、入浴等の同性介助は職員のシフトを調整し希望に添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人へ確認しながら、言葉だけでなく表情や仕草で思いを汲み取れるよう、働きかけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に職員同士で話し合い、お一人お一人の様子に合わせ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の使用されていた化粧品や洋服など提供いただき、ご自身で出来る限り準備いただけるよう見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好みのメニューを提供を心がけている。ご家族様にもご理解いただけるよう相談・報告に努めている。 食事支度への関わりが継続できていない。	本社から届くメニューを基に調理専門の職員が時にはアレンジしながら作り、利用者は包丁を使ったり、盛り付けや洗い物などのできることに携わり、職員も一緒に団欒しながら食事を摂っています。外食や寿司の出前、流しそうめんをしたり、花見などは弁当を作り家族にも声をかけ出かけています。たこ焼きやお団子などのおやつ作りを楽しんだり、個別の希望を聞きながらうどんや餃子などを食べに出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については、個々に記録している。体重の変動やその日の状況 前後の日も含め情報共有しながら支援している。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後、就寝前にはお一人お一人に合わせた口腔内の清潔保持を行っている。ご家族様にも相談し、歯科医と連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせて、一日の中でも状況により使用方法を話し合いながら変更し、個別の支援を行っている。	記録などから排泄リズムを把握し、一人ひとりの間隔や排泄のサインなどを見ながらトイレで排泄できるよう支援をしています。日中や夜間帯、外出時は紙パンツを使用するなど状況に合わせて排泄用品を検討し、家族にも相談しながら、布の下着で長く過ごせることを目指しています。入居間もない利用者には24時間排泄チャートを用い必要な支援を見極め把握できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物で工夫し、医師・看護師とも連携しながら個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアプランにも加え、ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴が出来ている。曜日や時間帯もご本人に都度了承いただき実施している。	入浴は週に2~3回支援し、毎日入る方もおり、時間帯は利用者と相談して決め、夜間の希望にもできる限り添えるよう努めています。一人ずつ湯を入れ替え、柚子湯や入浴剤の使用、好みのシャンプーを使う方もおり、個々に合わせた支援をしています。また入浴を断る方は職員や時間を変えたり、家族の協力も得ながら支援し、無理な場合は翌日にするなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況に合わせて、ケアプランでも全職員が様子観察に努め、寛げる工夫や睡眠頂ける環境を心がけている。(ソファの設置・照明)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師の指示の下、状況や薬剤情報の変更がある都度、支援方法や情報の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として洗濯物や食事作り、掃除にも積極的に関わっていただけるよう工夫している。個々の趣味や楽しみに合わせ、図書館・買い物・畑作業・日曜大工・散歩を支援している。		



愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中やご家族様からのアドバイスも頂きながら個別の外出は実施できている。ご家族様にもご理解いただき、ご本人の希望される場所に出かける機会を心がけている。	天気の良い日は散歩や四季折々の花が咲く公園に花見に行ったり、年に1度は食事や風呂に入り一日過ごせる場所に行き温泉気分を味わってもらっています。外出行事によっては家族にも声をかけ一緒に出掛けています。また希望を聞きながら海遊館や阿倍野ハルカス、図書館に本を借りに行くなど、個別の外出支援にも力を入れています。庭の畑で花や野菜の世話や外気浴などもできるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の中で、個人で支払いをお願いしている。散歩の途中でも自販機を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に寄り添えるよう、ご家族にも協力いただきながら電話や手紙 写真などでやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には季節や日時が分かる物、一日の状況(天候や・気温)にも注意し、皆様が居心地が良い空間作りに日々努めている。	共用空間は利用者が活けた花や行事の写真などを飾り、リビングには和室もあり、ユニット毎の利用者に合わせて炬燵を置いたり、随所にソファーや椅子、作り付けのベンチもあり、好きな場所を選び過ごせるようにしています。また重度の方も寛げるようリクライニングできる椅子も置いています。日々の掃除や温湿度の管理、利用者の動きにも配慮し安心して過ごせるよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には、個々が座りやすい椅子やソファーの配置、個室を整え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居後も様子をお伝えしながら、ご本人の馴染みや好みに合わせ環境を整えるよう配慮している。	入居時に自宅にある使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、自宅を訪問した際に写真を撮らせてもらうこともあり居室づくりの参考にしています。文机や籐の椅子、大切な仏壇やエレクトーンなど自由に持ち込んでもらい、家族と相談しながら配置をしています。また刺繍などの自身の作品を飾ったり、カーペットを敷く方もおり、その人らしく安心して過ごせるよう環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や共有スペースの利用時には、ご本人が過ごしたい形で過ごし生活が送れるよう、状況に合わせて工夫している。		